



## 日本で初めての年越し

私は、過去に2回、日本に滞在したことがあります。今回、初めて日本での年越しを経験することができました！

年末年始が近づくと、私はドキドキワクワクしました。ドイツとは違った日本の習慣を体験できるからです。ドイツの大晦日は、ただパーティーをしてたくさんの料理を食べて、お酒を飲みます。年越しのカウントダウンに合わせて花火が上がりますが、寒いのですぐに家の中に入ってしまいます。

去年の大晦日、私は、学生のお世話になってからずっと親しくしているホストファミリーの家でコタツに入って、紅白歌合戦を見ながら年越しそばを食べました！ドイツにも大晦日によく見る有名な番組があります。Dinner for One (ディナーフォーワン) という10分のコメディ番組なのですが、この番組は、もうドイツの文化の一部になっています。

日付が変わって元日になったら、ホストファミリーと新年のあいさつを交わしました。ドイツのように大騒ぎはせずに、静かな年越しでした。とても興味深かったです。初詣では、おみくじで大吉をひきました！

おせち料理はどれも美味しく、そこに込められた意味を想像しながら味わいました。

最高のお正月になりました。



## なぜドイツ人なの？

どうして下野市役所にドイツ人がいるのでしょうか。不思議に思う人もいるかもしれませんね。

下野市 (旧石橋町) とドイツのディーツヘルツタール (旧シュタインブリュッケン) は、「石橋」という同じ地名 (シュタインブリュッケンは日本語で石橋という意味) が縁で、1975年に姉妹都市を締結し、合併して名前が変わった後も40年以上交流を続けています。

私には、両市のコミュニケーションをスムーズにする役割もあります。

私は、下野市で働くことが決まってから、実際にディーツヘルツタールへ行ってきました。ディーツヘルツタールの入り口に看板があるのですが、その形が日本の鳥居のようだと感じました。その

看板の後ろには、石で作られた小さな橋のある日本庭園があって、とても驚きました。ドイツの小さな市なのに、日本庭園があるなんて！

ディーツヘルツタールの人たちと話をしてみたら、たくさんの人が下野市との姉妹都市関係について理解していました。

何度も日本に行ったことがある人もいて、日本が大好きだという話をたくさん聞き、私まで嬉しい気持ちになりました。

私は、両市の交流がこれからも続いて欲しいので、ここ下野市でひとりでも多くの人にディーツヘルツタールのこと、姉妹都市交流のこと、ドイツのことを紹介したいです！



## コラムを読んでくれて、ありがとうございます

私は毎月、このコラムを書くことをとても楽しみにしています。テーマを選んで、日本とドイツの違いを丹念に調べるのは面白いです！

視覚障がいのある方のためのコラムの録音も楽しみにしています。何度も何度も練習して、それでもうまく発音できないことがあります。良い発音の練習になります。

引き続き、2年目も頑張ります！